

TOKYO FM パーソナリティ・カレッジ

ミキシング講座 カリキュラム例

【 基礎編 】

回数	テーマ	内 容
1	マイクロフォンとコードについて	マイクロフォンは音声録音によってさまざまな種類があります。どんな声に、どんな状況に、どんなマイクが必要か・・・マイクの種類と特色を知っていくことが不可欠です。そして、コードは雑音対策として重要です。接続するコネクタにも種類があります。そうしたマイクの種類やコードと接続の基礎について学びます。
2	アナウンス・ブースの特色	スタジオはアナウンス・ブースとミキシング・ルームからできています（ワンマン・スタジオの場合は1室で2つの機能をもっています）。スタジオの構造、そして遮音と反響について、その基本を学びます。
3	調整卓のしくみ	調整卓（コンソール）はスタジオの心臓です。どのような働きをするのか・・・入ってくる音（入力）、出て行く音（出力）、音声をどのように調整するか・・・入力出力の機材と機能はどのようになっているか・・・など、スタジオにおける調整卓の機能としくみを学びます。
4	録音機材とモニターについて	音声録音には「音質」と「音レベル」の判断が重要です。「音質」の判断やそれに伴う「音レベル」について学びます。また、録音機材（テープ、MD、DAT、ハードディスクなど）の種類とその違いを学ぶほか、録音入力レベル、接続コネクタなどについて学びます。
5	ナレーション録音について	ナレーションを録音する場合、前提となる諸事項がいくつかあります。 ①マイクロフォンの位置、②マイクを通した「声の質」や「声の音量」、 ③ミキサーとディレクターの関係、その他ミキサーが事前に準備すること、ディレクターの意向をどのように反映させるか・・・など、その課題と実践を学びます。
6	スタジオワーク	第1回～第5回まで学んだことを実践します。アナウンサーに登場してもらい、実際に録音をします。「マイクのセッティング」「声の音量・質」「音出しの素材と機材チェック」「録音機材のチェック」その他、レコーディングに必要な基本的テクニックやディレクターとの調整などを学びます。

TOKYO FM パーソナリティ・カレッジ

ミキシング講座 カリキュラム例

【応用編】

回数	テーマ	内 容
1	パソコン編集ソフト「プロツールズ」の実践指導	最近録音をハードディスクでする場合が多くなりました。そして、番組編集も「プロツールズ」などの編集ソフトで加工する機会が多い。そこで、パソコン編集をどのようにするのか、「プロツールズ」を使った編集の方法を学びます。第1回は「プロツールズ」の使い方、注意事項など、基本を学びます。
2	「プロツールズ」への録音の仕方	編集ソフト「プロツールズ」へ録音する場合の「入力レベル」「チャンネルの作り方」「操作方法」など全般に渡って学びます。「プロツールズ」はすべて波形で音声の録音状況を判断します。「声のCH」「音楽のCH」「効果音のCH」など、1つ1つの音源をチャンネル別に録音します。その音源をチェックし、1つの番組に仕上げていきます。その基本的操作を学びます。
3	「プロツールズ」からの出力	「プロツールズ」に録音した「声」「音楽」「効果音」などの各チャンネルから、「音」を出力させる方法と仕組みを学びます。「音」と「波形」の関係、各チャンネルと音源の相関関係など、「プロツールズ」のしくみを学びます。
4	「プロツールズ」の編集テクニック	「プロツールズ」で録音した音源、「ナレーション」「ミュージック」「効果音」などなど、個別に波形で編集する方法や各チャンネルを一体化する方法、また、各チャンネルの音量の調整、たとえば、ナレーションの音量を高める方法、音楽のBGレベルを変更する方法、1秒、2秒をカットする方法などコンピューター編集の得意技を学びます。
5	「プロツールズ」を使った実践録音	「アナウンサー」に登場してもらい、実際に「声」を録音、また、CDから「ミュージック」を、取材した「テープ」や「効果音」を使った、実践的番組をレコーディングします。このレコーディングを通して、ミキサーの仕事、「プロツールズ」を使った録音を実践してみて現場のノウハウを学びます。
6	番組とCMの制作	受講者一人ひとりが自分の番組やCMなど「音構成」を行い、完成品を創り上げます。また、完成品はCDにして利用者に提供します。「プロツールズ」のすべてを使いこなすことができる総合的に学びます。